

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	舞鶴市立和田中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	～「学び手」を育てるために～

〈活動・研究の意義および活動報告〉

### 1. 活動の趣旨

本校は京都府北部舞鶴市に位置し、市内唯一の1小1中という、特徴ある中学校区である。小中が一貫して「学び手」を育てることを目標に掲げ、ここ数年は、総合的な学習の時間を窓口にして、連携が進んできている。しかしながら、小学校での学びを基盤に中学校で学びを深めるといった、スパイラルなカリキュラム作りにはまだ至っていない現状がある。また、心理的安全性が低いクラスでは、自分の殻を破ることができず、受け身になってしまう生徒も少なからずいることがわかってきた。

そこで、令和4年度より、経済産業省が示した「社会人基礎力」をもとに右記の「12の力」を「大事にしたい12の力」として示し、総合的な学習の時間を柱に、社会で貢献できる生徒（持続的な社会の創り手）の育成を目指すことになった。仮説として、異年齢集団での総合的な学習の時間での主体的な学びが、非認知能力（本校区の大切にしたい12の力）を高め、それが学力（認知能力）にも影響を及ぼすのではないかと考え、研究を進めている。

大きく変えたことは、総合的な学習の時間を「探究活動」にし、5つのゼミを展開して、職員全員で生徒の「やりたい」を叶えられる学校づくりを進めたことである。今年度は、資金面でも支援をいただき、それぞれの生徒が、身近に感じる課題から更に深掘りしていく「解決型学習」を通して、以下の資質・能力を育成するため、教育活動を展開した。

- (1) 教科と探究的な学習の時間をつなぎ、課題解決に必要な知識及び技能を身に付ける。【知識・技能】
- (2) 課題の解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報から、根拠を明らかにしたりして、まとめ・表現する力を身に付ける。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会の実現にむけて行動する態度を育む。【学びに向かう姿勢】



### 2. 活動の具体

本年度は、33のグループ（全校生徒）が5つのゼミに分かれて総合的な学習の時間（和田クエスト）で課題解決に向けて取り組みを進めてきた。ゼミ長は、教務主任、キャリア主任、生徒指導主任など、担任以外の教員が担い、全職員が子どもたちの学びのサポートができる体制をとった。



生徒たちの願いは様々で、「地域をきれいにしたい」「舞鶴を活性化させたい」「クラブチームを地域に作りたい」「海外の中学生との交流を通して文化を学びたい」「放置竹林の問題を解決したい」など、多岐にわたっていた。

なかでも、「舞鶴を活性化させるには」というテーマで探究をしたグループ（カフェスイーツ）は、7月に行った「夢講演会」がきっかけとなり、地元の企業（大滝工務店）からご支援をいただいて、地域のシェアスペース



「Flat+」でチャレンジカフェをオープンすることになった。ほかにも、舞鶴海軍コーヒーが舞鶴の特産の一つになると考えたグループ（まいっ茶）は、地元で販売をされている Metel 珈琲さんとのコラボで「海軍コーヒーとフロランタンのセット」を学習発表祭でふるまい、地域や保護者の皆様の笑顔で会場をいっぱいにすることができた。



「自分たちの住む京都をきれいにしたい！」と活動を行ったグループ（掃除屋）はポイ捨ての危険性を知ってもらうことが大事だと考え、地道に清掃活動を行うとともに、日本旅行の平田進也様に自らコンタクトを取った。オンラインで平田様に思いを伝えたところ、ご支援をいただくことになり、ラジオで活動のPRを行うことができた。

\*詳しくはHPをご覧ください。



### 3. 成果

本年度、「総合的な学習の時間」を柱に学校づくりを進めることで、以下の4点の成果が見られた。

(1) 生徒が学校の枠を飛び越えて、地域へどんどん足を運ぶことにより、地域と学校との距離が縮まりつつある。地域・保護者・学校が手を取り合って、子どもたちの成長を見守る学校・地域づくりを一步步進めていくための基盤作りができた。

(2) 探究の過程で、スクラップ&ビルトを繰り返す中で、予測できない変化にも主体的に向き合うことができる態度が育ってきている。特に3年生は、自分たちの「やりたい」を叶えるために、仲間や地域の大人、同世代の生徒と積極的に関わり合い、自己有能感や自己肯定感が高まった。

(生徒の振り返りより)

和田クエエストを通してちょうせんすることが大事だと思いました自分たちはクラブチームを作ると言うテーマで活動してきたから挑戦することが大事だと学びました。12の力で④の主体性の力がついたと思います。なぜなら、自分たちは中々責任者などが見つからなくて外部の人に積極的に聞いたりして責任者が見つかったからです。なので主体性の力がついたと思います。

和田クエエストを通して自分の疑問や探求したいことを1から自分で計画して実行していくことで普段の授業や生活でも色々な場面で活かすことができ探求して学んでいくことが大切だと学びました。その活動を通して私は課題発見力がついたと思います。その理由は自分たちが活動していた和田中学校を広めるというテーマで和田中を発信した後どのように活動していけば良いのかわからなくなってずっと止まっていたけどその後何をしていく必要があるか考えてできたので課題発見力が付いたと思います。

僕は和田クエエストを通して、舞鶴について学べたと思う。僕が思っているより舞鶴市はいろんな活動を行っていたり、それを宣伝していることがわかった。また市役所の方々や交流を行う際に一部の資料しか目を通してなくて話が噛み合わないことがあったから準備はとても大切だと学べた。身に付いた力は発想力と対応力がついたと思う。舞鶴市役所の方々と交流から一緒に活動を行うのは難しいと思ってから時間はかかったり行動には移せなかったりしたが、それとは全く別の方法で舞鶴市のためになることを考えられたから。

(3) 探究的な学びにおいては、「何のために学習をするのか」という目的が明確になり、学習へのモチベーションが高まり、学力の向上や不登校生徒の減少につながっている。

(4) 教師の考え方が、「与える教育」から「支援する教育」にシフトし、個別最適な学びへの理解が進んだ。そのことにより、教科の授業改善も進んできている。

### 4. 課題

今年度は、身近にある課題から探究課題を設定したが、興味・関心の深掘りができていなかった学年では、調べ学習でとどまってしまったように感じる。キャリア教育とつなぎながら、まずは自分自身を知る時間をしっかりと確保する必要がある。また、和田クエエストでは意欲的に学びに向かうことができるものの、教科の学習では力を発揮することができていない生徒も少なからずいる。学力との相関関係については、今後検証していく必要がある。

### 5. 次年度に向けて

次年度は、「総合的な探究の時間」と「教科指導」をリンクさせたカリキュラムの構築と実践を行いたいと考えている。総合的な学習の時間では、1年生は1・2学期に時間をかけて問いづくりを行い、自身の探究課題を見つける時間をたっぷり確保する。3学期からはゼミに加入し、先に探究をはじめている2年生・3年生のグループ、もしくは、単独で探究活動を行う。2・3年生は、探究のサイクルを回す中で、研究の成果と課題を振り返る機会を定期的に持つことを意識していきたい。また、研究主任を中心にして、教科を横断した探究カリキュラムの作成を進めていく。具体的には、総合的な学習の時間はもちろん、教科においても、身近な生活と教材をつなぎ、疑問や気付きを自分事として追究し、新たな概念を獲得できるようにしていく。一人一台端末の環境を活かしながら、ICTを用いて、論理的思考を高めていきたい。